



門脈血行異常症の病態解明

2010年1月1日より2024年1月31日までに門脈血行異常症（特発性門脈圧亢進症、肝外門脈閉塞症、バッドキアリ症候群）のために診療を受けられた患者さん

研究協力をお願い

当科では「門脈血行異常症の病態解明」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2010年1月1日より2024年1月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、門脈血行異常症（特発性門脈圧亢進症、肝外門脈閉塞症、バッドキアリ症候群）のために診療を受けられた患者さんの病態を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：門脈血行異常症の病態解明

研究期間：研究実施許可日～2025年12月31日

研究責任者：日本医科大学付属病院 消化器外科 講師 清水 哲也

(2) 研究の意義、目的について

日本医科大学付属病院は数少ない日本門脈圧亢進症学会認定の教育施設として門脈血行異常症の患者さんを多く診察させていただいております。希少な門脈血行異常症（特発性門脈圧亢進症、肝外門脈閉塞症、バッドキアリ症候群）は病態や治療に未解決の部分が多く、これらの患者さんの診療は難渋する 경우가少なくありません。門脈血行異常症を有する患者さんの背景にある血液疾患や自己免疫疾患などの病因、門脈圧亢進から引き起こされる消化管静脈瘤や難治性腹水などの病態を明らかにし、適切な治療方法を解明することを目的とする本研究は、診断や治療に難渋している門脈血行異常症の患者さんの予後や生活の質の向上に将来的に寄与するものと考えております。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2010年1月1日より2024年1月31日までに日本医科大学付属病院消化器外科にて、門脈血行異常症（特発性門脈圧亢進症、肝外門脈閉塞症、バッドキアリ症候群）のために診療を受けられた患者さんの病態や治療方法を解析します。対象に小児例（18歳以下）を含みません。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、生活習慣（たばこ、アルコールなど）、併存・既往疾患（血液疾患、自己免疫疾患、炎症性疾患、がんなど）、画像検査（超音波、CT、血管造影、消化管内視鏡等）、内服薬、治療、血液検査所見（血算、生化、凝固系、各種マーカー：腫瘍、自己免疫系、血液系 JAK2V617F 変異、JAK2 exon12 変異等）、内服薬、治療、病理所見等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 消化器外科 講師 清水 哲也

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24220

メールアドレス：tetsuya@nms.ac.jp